

## 總會略記

Annual Meeting, O. A. A.

かねての公告の通り、去る五月24日、田上天文臺に於いて本會の總會が開かれた。天氣は小春日和の上々、定刻の12時までには、草津から到着した遠近よりの會員たちは、6キロの田舎道を、自働車、自轉車、厚生車、又はテクる人等々、いろいろであつた。到着順に各自は觀測室や研究室を參觀した。

11時より先づ役員會があつて、過去1ケ年の事務及び會計報告に關係する用務をすまし、正12時、會長の簡單な歓迎の辭あり、それから、時局がら、辨當持ち寄りの會食をした。14時頃まで、食べることに、話すことに、共に盡きない。

14時より、山本臺長の“田上天文臺建築”に關する解説講話があつた。建築設計等は、本誌の前號記事にも精しく載つてゐたけれど、この講話では、實地につき、記事に書けない細部のことや、多少の模様變へなど、更に今後の計畫等について、説明があつた。純日本式の建築で、しかも、純西洋式の觀測室に劣らない能率を發揮するやうに工夫された苦心と、その設計は、全く國內に(否、世界に)比類の無いもので、今後の天文臺建築に好い參考となるものと思はれる。

會長の講話の後、二つ三つ質問などあり、それから、豫定の如く、井本進氏の“遊星惑星源流考”の講演があつた。多くの古書などを展覽しつゝ詳細に“游星”“遊星”“惑星”“緯星”等の語原や歴史等を解説せられ、一同大に啓發せられる所があつた。その要領は、本誌本號と次號とに連載せられるから、一般讀者も熟讀されんことを望む。

井本氏の講演が終つて後、山本會長が議長となり、會務に關する諸報告及び協議をした。中村理事の報告によれば、近來、會況頗る盛んであつて、會員數も増し、會計狀態も著しく好況である。こんな好況は會の創立以來のレコードである由。尙、今後、新時局に即應し、學術の進歩と、普及のため、會長始め役員や一般會員も一層奮起し、特に新會員の募集に努力することを申し合はせた。

16時頃散會したが、散會直前、山本臺長の要請により、新天文臺の各部に用ゐられる大小多數の表札に、一同分擔して、得意の毛筆を振つた。之れは實に好個の紀念となつた。今後、又、かうして各自が筆を振つた表札の文字に憧れて、再び或は三度び田上天文臺を訪ねる人も少くはあるまいと思ふ。

此の會に集まつた會員は、東は静岡から西は神戸、和歌山の範圍で、中にも、地元の滋賀縣のほか、京都、大阪、神戸の人々が最も多數であつた。(K)